

架橋ポリエチレン管(PEX)とポリブテン管(PB)について

両者は呼び16Aおよび20Aでは径寸法(管の内径)が異なり、それぞれ専用の継手と接続します。
呼び10Aおよび13Aでは径寸法が同一なので継手も共用となります。

架橋ポリエチレン管

水道用架橋ポリエチレン管(JIS K 6787)・架橋ポリエチレン管(JIS K 6769)

■寸法表 (種類: XM)

呼び径	外径(mm)		内径(mm)		厚さ(mm)		質量(kg/m)	適用規格
	基準寸法	平均外径の許容量	基準寸法	平均内径の許容量	基準寸法	許容差		
10A	13.0	±0.15	9.8	±0.25	1.6	±0.20	0.0539	架橋ポリエチレン管JIS K 6769 及び水道用架橋ポリエチレン管 JIS K 6787
13A	17.0		12.8		2.1		0.0924	
16A	21.5		16.2	2.65	±0.25	0.148	架橋ポリエチレン管JIS K 6769	
20A	27.0		20.5	3.25		0.228		

■最高使用圧力

(JIS K 6769による)

種類	使用温度℃	0~20	21~40	41~60	61~70	71~80	81~90	91~95
PN15※	最高使用圧力 MPa	1.50	1.25	0.95	0.85	0.75	0.70	0.65

PN15: 水温20℃において最高使用圧力が1.5MPaの耐久性を持つ架橋ポリエチレン管であることを意味します。

ポリブテン管

ポリブテン管(JIS K 6778)

■寸法表 (種類: J種)

呼び径	外径(mm)		内径(mm)		厚さ(mm)		質量(kg/m)	適用規格
	基準寸法	平均外径の許容量	基準寸法	平均内径の許容量	基準寸法	許容差		
10A	13.0	±0.15	9.8	±0.25	1.6	±0.2	0.053	ポリブテン管 JIS K 6778
13A	17.0		12.8		2.1		0.090	
16A	22.0		16.8	2.6	0.146			
20A	27.0		21.2	±0.30	2.9	0.202		

■最高使用圧力

(JIS K 6778による)

使用温度℃	5~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90
最高使用圧力 MPa	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4

※本カタログ内の表中サイズでは、○Aは樹脂管の呼び径を、○/○はネジの呼び径を示します(ネジの種類は製品によります)。

⚠ 注意

- 樹脂管(PEX、PB)は常時70℃を超える配管には使用しないでください。
- 樹脂管(PEX、PB)および樹脂製被覆管(保温材、さや管、パイプガード等)は紫外線劣化を防ぐため、日光の当たる場所での配管や保管をしないでください。
- 樹脂管はJISにより、使用温度によって最高使用圧力が決められており(上記参照)その範囲内で使用してください。
- さや管施工時の最小曲げ半径及び曲げ箇所数は下記表以内とし、曲げ箇所数はできるだけ少なく、又曲げ角度は90°以上にしてください。

PEX管の場合(架橋ポリエチレン管工業会設計・施工マニュアルによる)

樹脂管サイズ	さや管サイズ	最小曲げ半径(mm)		曲げ箇所数		
		水平部	立上り部	水平部	立上り部	合計
10A	22	300	150	4以下	2以下	6以下
10A※	22	450				
13A	25	400		3以下		
13A※	25	450				
16A	28	500	250	5以下		
20A	36	600	350			

※PEX管に消音テープを巻いた時場合。

PB管の場合(ポリブテンパイプ工業会技術資料による)

樹脂管サイズ	さや管サイズ	最小曲げ半径(mm)		曲げ箇所数		
		水平部	立上り部	水平部	立上り部	合計
10A	22	200	150	4以下	2以下	6以下
10A※	22					
13A	22					
13A※	25	250				
16A	28	350	250			
20A	36	450				

※PB管に消音テープを巻いた時場合。

樹脂管(裸管)の最小曲げ半径(mm)

樹脂管サイズ	PEX	PB
10A	150	100
13A	150	150
16A	200	200
20A	300	300

- 結露・凍結の恐れのある場合には、必要に応じて保温の処理を施してください。凍結により、管、継手などが破損する場合があります。凍結の恐れがある場合は、水抜き等を行ってください。
- 樹脂管には火気を近づけないでください。火の粉や熱により損傷劣化する恐れがあります。
- 防蟻剤や灯油、有機溶剤などが樹脂管に付着しないようにしてください。
- 樹脂管は、土中及びコンクリート内に直接埋設しないでください。
- 樹脂管を土中及びコンクリート内に埋設する場合には必ずさや管で養生してください。
- 樹脂管の釘打ち、ツブレなどにご注意ください。キズや座屈の生じた樹脂管は使用しないでください。保温材付樹脂管はコンクリート埋設できません。
- 作業は手袋等を使用し、手の保護をしてください。